

令和 4 年度

自己評価と学校関係者評価

一 当園知的教材研究、指導講師（平田匡邦先生）による評価

幼稚園教育課程と保育指針の内容を確認し、教職員の共通理解をはかり、教育の質を高めるとともに、保護者のニーズを確認することで、本園がこれから担う役割について検討する。

保育目標	・コロナ禍における感染対策を欠かさず、子どもたち、保護者、職員が「感染しない、させない」という志をもって毎日を過ごす。 ・コロナ禍での保育内容を工夫し、充実させる。 ・ひとりひとりの特性や家庭環境をふくめた内面の深いところにある意欲やこだわりをくみ取り、認め、褒めることでやる気を出させる。
------	---

重点項目	具体的な取り組み	自己評価と課題	平田先生
幼稚園教育要領、保育指針を理解し、教育課程、保育課程の編成と実施	・新型コロナの感染状況を踏まえながらも熱中症予防のために子どもたちのマスク着用を自由にする。 ・日常的な子どもたちの感染予防(手洗い・うがい)や衛生管理を継続する。 ・保育参観や行事の実施方法についても、徐々に人数制限等を緩める方向で検討しつつも過度な密を避ける。 ・カリキュラムは、毎回適切なねらいを定め、挑戦する意欲と達成感が味わえるよう、子どもが喜んで進めていけるよう工夫する。 ・しっかりと栄養バランスを取って体力をつけ、健康な体をつくる。 ・普段食卓に並ぶ野菜がどうやってできるのか観察し育てることで、親しみを持って食べようとする。	【感染対策 評価 A 】 ・コロナ感染対策もだんだんと緩和されてきている中マスク着用に関しては、保護者の意向を尊重しまかせている。 ・マスクを外すことで、他の菌が体に入りやすいので、今まで以上手洗い、うがいをしっかりとするよう声掛けをしていっている。 ・朝の検温も保護者にまかせているが、途中で体調が悪くなることもあるので、園の方でも給食前、おやつ前には検温をして体調を確認している。 【行事 評価 A 】 ・まだ分散参観を行っていて、1クラス5～10人ぐらいで、ゆったり観てもらっている。 ・行事も中止するのではなく、全学年が参加できるよう、内容を考えた。まだまだ一斉にとはいかないので、少しずつコロナ前に戻していけるよう、ゆっくり進めていった。 ・母の会役員さんの意見も聞きながら、保護者・園双方の思いを一致して、子どもたちのために行事をより良い方向に進めたいと頑張ってきた。 【カリキュラム 評価 A 】 ・前の学年での進み具合を見て、個人差もあるので、それぞれ子どものやる気が失せないよう、細やかな配慮が必要。 ・何事も挑戦することもあるので、準備をしっかりと、調子も整えてから活動する。 【食育 評価 A 】 ・ベランダで年中さんが主でプランター菜園をしている。どの学年のお友だちも、楽しみに様子を観にいていた。 ・その野菜に関連した制作をしたり、図鑑を広げて詳しく調べてみたりした。 ・給食時に、育てている野菜と同じ物が出た時にはみんな喜び、じっくりみたり食したりすることを楽しんだ。	《感染対策》 最近はいろいろな感染症が季節を問わず流行するようになってきました。毎年、新人の先生も職員の仲間に加わりますので、感染症対策マニュアルの内容点検をし、職員研修を徹底しましょう。感染予防には、手洗い・うがい・消毒が何より大切です。新型コロナ対策で懸命にその必要性を子どもたちに指導してきました。マスクをはずす傾向が強まっている今日、言われなくても「自らきちんとできる」予防の習慣づけ指導を引き続お願いします。 《行事》 小さい頃の思い出はいつになっても記憶に留まります。「あの時は、こうだった、楽しかった・・・と」環境の変化で今までのように実施できなくても、職員の知恵とチームワークを結集してその時にできるベストな体験をさせてあげましょう。役員の方々と思いと共にする密なコミュニケーションには大賛成です。 《カリキュラム》 年度終了時点で学年間の到達度を確認した上で新学年の計画を立案するよう にしましょう。 また、保育を進めるうえで「楽しい・もっとやりたい」こんな気持ちや意欲を育てることが大事です。 「できた！できるようになってきている」という「自己肯定感」が持てる子どもの育成に邁進していきましょ う。

	- 心の特別配慮を必要とする子どもの個々の特性を知り、それぞれの子どもについての理解と関わり方を皆で考え共有する。 - 毎日の預かり保育では、普段と違うクラスや学年の子どもたちと交流し、子どもたちの気持ちが安定して、ゆったり過ごすことができるように、環境設定、保育カリキュラムを考える。	【特別支援 評価 B 】 - 支援が必要な子は担当者を決め、毎日の様子を記録してもらい、それを読んで子どものことを皆で知り合い、協力して見守っていった。 - 保護者との懇談も設け、家での様子、園での様子を共有しながら、子どものことを理解追究していった。 【預かり保育 評価 B 】 - 午後からの体調にも目を行き届かせ、担任からの申し送りがあればそれを大事に、保護者への伝言も抜けないようにした。 - 荷物の間違えがなくなるよう、自分で名前を確認しやすい置き方を工夫した。 - 預かりの先生と担任との会議を設け、お互いの状況などを伝えあった。	《食育》 身近にできる野菜栽培では、植物の生命力や神秘さ、水やり・手入れなど、世話をすることの大切さなど、植物から教えてくれることがいっぱいです。来年は、どうしたら収穫量が多くなる？美味しくなる？なども課題に入るとよいのではないかと思います。 《預かり保育》 午前と比べて午後の時間は気が緩んだり、体調の変化がでてきたり、予想もしない事態が起こる可能性が多くあります。職員間の引き継ぎ事項等のコミュニケーション・保育時間内の行動管理や観察などをまめにしましょう。また、預かり保育はお友だちとの親交を深めたり、年齢間の良好な関係を作る場でもあります。午前も楽しいけれど、午後も楽しいというようにファミリー的（異年齢と楽しく過ごす）な場になれば最高にいいですね。
保育の在り方、子どもへの対応の仕方の改善	- 笑顔で子どもたちを迎え、頑張って登園してきたこと労う。保護者への挨拶・言葉がけもしっかりする。 - 自分の持ち物やおもちゃや教具を丁寧に扱う。準備、片付けもスムーズにできるよう、動線を考える。 - 身だしなみを整え、姿勢を整えることで、保育に集中できるよう気持ちを落ち着かせる。	【挨拶 評価 B 】 - 先生からしっかり子どもの顔を見て挨拶をする。保護者にも元気に明るく挨拶し、保護者同士にも挨拶の輪が広がることを願った。 - 普段から自発的に挨拶することで、来園者の方々にも自分からできるよう促していった。 【身の回りの管理や準備、片付け、身だしなみ 評価 A 】 - 朝の身支度を自分なりにじっくり取り組み、徐々にさっさとできるよう声掛けしてがんばってもらった。 - 用品の準備、片付けは、両手でしっかり丁寧に行っている。 - 帰りには、シャツやえり、靴下など身だしなみをきちんとした。荷物も取り間違えないよう、確認している。	《挨拶》 松原ひかり幼稚園の園児は人懐こく、挨拶が積極的に自分からできる子がたくさんいます。さらに挨拶運動をすすめてください。子どもたちは、先生の挨拶をしっかり見えています。園児や保護者に明るく元気な声で挨拶をすることがお手本になると思っています。 《身の回りの管理や準備、片付け、身だしなみ》 子どもの時に習慣化したものは大人になっても続きます。身辺自立には個人差があります。一人ひとりを観察し、その時々に応じたアドバイスを心がけ、できるようになったら、喜びをシェアする気持ちで対

	・子どもの意思・意見を表現できる環境・雰囲気づくりに気を配る。 ・子どもの興味関心、好奇心をくみ取り、もっとやりたい、知りたいという意欲を引き出す。 ・意図せず傷つけるかもしれない言葉遣いを避け、伝え方、声のトーン、言葉をかけるタイミングを配慮する。	【教育保育の在り方・環境 評価 A 】 ・朝の自由遊びの時に子どもたちと話しながら、その日の子どもの様子を伺い取る。また、出席を取りながら、子どもの視診と帰り・預かり・習い事などの確認をした。 ・進級してすぐのカリキュラムを進める時は、今までの学年でしたことを見直し、現状を把握してからゆっくり入っていった。 ・子どもと一緒に活動を考えたり、選択したり、いつも子どもの思いや意見を取り入れた。 【子どもとの接し方 評価 A 】 ・朝の出席点呼で、子どもの声の大きさ、張りなどにも注視し、通常の様子をよく把握し、体調の変調に気づけるよう気を配っている。 ・遊びの中で、1人である子に声掛けをして、一緒に遊びながら他の友だちの輪に入っていくよう、関わりを持っている。 ・言葉遣いは丁寧にするよう心がけている。	応じましょう。 《教育保育の在り方》 自由遊びは、個別に一番寄り添える時間です。どんなことを考えているのか、家庭での様子などを知ることでもできます。体調等の視診・確認事項とともに、いろいろな話を聞いてあげることによって一層の信頼関係を深めていただきたいと思います。 《子どもたちとの接し方》 朝の挨拶からの動作や声の出し方など、子どもたちは常に信号を送ってくれています。小さな変化も見逃さない気持ちで一人ひとりを観察するよう心がけましょう。接し方や保育内容のヒントはここにあると思います。
保護者との連携、信頼関係、子育て支援の強化 地域住民との相互理解	・園だより、クラス便り、保健だよりの発行 ・ホームページに、お知らせや行事、日常保育の様子を掲載 ・各クラスの動画配信 ・アプリを使った緊急メール配信、連絡案内のお便りページ ・分散参観、個人懇談 ・保護者からの電話相談 ・子育てに関する悩み、家庭での悩みを相談することのできるスクールカウンセリング ・保育士による子育て情報交換会、個人面談 ・未就園児教室、保育体験、園庭開放 ・地域の子どもたちの一時預かり ・行事前の近隣の方々への配慮、挨拶まわり、お礼 ・幼年消防クラブの「発会式」「花火指導」「防火パレード」 ・母の会役員会のオンライン会議	【保護者への情報発信 評価 A 】 ・園舎内に入る事はまだまだ遠慮してもらっている分、保育の様子や子どもたちの表情をカメラで写し、動画配信をしてゆっくり観てもらっている。 ・ペーパーレスを進めているので、大事なこと、急ぎがあればアプリで配信している。 ・懇談時には、家での様子、園での様子を伝え聞き、これからの保育に反映させていただく。 【保護者の子育て相談・情報交換会 評価 A 】 ・一か月に1回、専門の心理の先生に来ていただき、希望の保護者との面談を行っている。 ・専門職員も、保護者が気軽に面談できる場を作り、その日までに、子どものクラスに入っている子供どもの状況を把握する。面談が終わると、保護者から聞いた話を担任や全職員と共有し、子どものために役立てている。 【地域住民との相互理解 評価 B 】 ・行事等では、音や声で迷惑をかけることもあるので、前もって近隣にお手紙を配布して理解をいただいた。 ・隣接しているお宅の前の道は毎日清掃してい	《保護者への情報発信》 いろいろな媒体・手段を使つての情報発信には工夫があり好感がもてます。今後も、保護者一人ひとりにあった情報発信やコミュニケーションが一層はかれるよう期待しています。 《保護者の子育て相談・情報交換会》 子育て相談のできる場が身近にあるということは保護者からも大変歓迎されると思います。 第三者の専門の先生に話すことで子育ての不安軽減の一助になることを願います。 《地域住民との相互理解》 近隣の方々の温かい理解があつてこそ園運営。普段から密なコミュニケーションをはかってください。 送迎の車の最徐行が励行できるようお願いします。特に駐車場からの帰り。

		る。	
安全管理と施設設備 の点検、補修,管理	・正門その他の場所での防犯カメラの設置 ・毎月、(火災・地震・不審者・Jアラートなど)の避難訓練の実施 ・遊具施設や危険箇所を毎日確認 ・故障のすみやかな補修 ・災害危険、特別警報等の緊急時のマニュアルの確認 ・消毒清掃で傷んだ廊下、保育室の床の補修	【安全管理 評価 A 】 ・インターホンが鳴ると、カメラをチェックして、来園者の確認をしている。来園者は玄関で対応している。 ・遊具のネジなど緩んでないか毎日点検し、園内外に不審物などないか、見回りをしている。 【避難訓練 評価 A 】 ・毎月1回、地震・火災・不審者・Jアラート・園児引き渡しなどの訓練を時間やパターンを変えて行っている。年に2,3回消防署、警察署の方に訓練を見ていただき、指導を仰いでいる。 ・訓練後は反省会をして、次回に生かせるよう見直しをしている。 【施設管理 評価 A 】 ・園内外の施設で不具合の所があれば、担任や係の者が報告書を書き、自分たちで直したり、できない所は、運転手さんや業者の方に直してもらっている。	《安全管理》 遊具での事故防止にはいくら注意を払ってもし過ぎることはありません。日常の安全点検の他、雨上がりの水滴チェック、夏の異常に熱をもつ遊具などの使用制限など、細心の注意を払ってください。 《避難訓練》 第三者の方から指導をいただくのは大変よいと思います。普段気づかないアドバイスもいただけるとと思います。今後も不測の事態にできるだけ対処できるよう、訓練内容の追加・見直しをお願いします。
子どもの健康と安全 への配慮	・登降園時の検温・消毒・マスク着用のチェック ・通園バスでの検温・消毒の徹底 ・個人の成長記録(いろんな分野) ・内科・眼科・耳鼻科・歯科検診 ・身体測定、眼の検査、聴力測定、手洗い指導 歯ブラシ指導の実施 ・保育環境の日々の清掃、衛生管理、整理整頓 ・自園給食での栄養バランスの改善、アレルギーの細かい対応 ・窓を開けて、こまめな換気 ・感染症等が出た際には、園内の消毒を徹底し、感染拡大をふせぐ。家庭でもできる消毒や処理の仕方を保護者と共有する。 ・夏は蚊取り線香を数か所おき、子どもたちには虫よけスプレーやミストをこまめに使う。 ・保育室や園庭で危険な場所を職員全員把握し、子どもの年齢と動線を考えた遊び方、どこでどのように見守るのか、どのような声掛けをどのタイミングでするのが効果的かを考え、実行する。	【健康管理 評価 A 】 ・体の変調がないか、給食前やおやつ前に検温をし、子どもの体調をしっかりと確認しておく。 ・園医の検診以外にも、看護師に歯ブラシ、手洗い指導や聴力、視力検査などを工夫して、子どもたちが集中できるよう、検査してもらっている。 【衛生管理 評価 A 】 ・保育室や共有する場所、特に玄関・トイレは、清潔できれいな場所として、常時保持できるよう心掛けている。トイレトレーニング中の子どもたちにとっても、爽やかな雰囲気で落ち着きの場所であってはならない。 【危機管理 評価 A 】 ・非常な雨天時、通園路が大変なことになるように、日頃から水抜け場所や、側溝の砂などを取り除いておく。 ・遅れがちバスコースの見直しをした。 ・バスが到着したら、添乗の先生と一緒に子どもたちが降りて来るのを確認し、子どもたちに頑張ってきたことを声掛け挨拶している。	《健康管理》 手洗い・うがいの感染予防の励行の他、園での視力や聴力検査をしているのはすばらしいと思います。視力や聴力低下は、保護者でも気づいてないケースがあると思います。歯磨き習慣も定着するといいいですね。歯の健康は全身の健康ですから。 《危機管理》 異常な気候変動による経験したことのない事態が多発しています。不測の事態に想定事例をいっぱい出し合って備えをしましょう。駐車場は便利な反面、事故が発生する可能性がある箇所でもあります。位置が異なるとはいえ、車と自転車が行き交うことになります。ワゴン車も多いので死角もたくさんあります。人の配置や駐車に関する注意事項など万全の対策を講じてください。

	・ヒヤリハットの報告と職員間の共有を必ず行い、どの部分で抜けがあるのかを改善していきながら、危機管理のスキルを高める。	その後、バスの方向転換や進行先を見守り、次のコースへと送り出している。 ・駐車場や駐輪場での利用の仕方やルールを、園だよりやクラスだよりで声掛けをして、事故なく皆が安全に使用できるように協力をお願いしている。	
--	---	---	--

今後の課題

年々支援が必要な子どもたちが増えてきている。担任と全職員でその子どもたちのことを知る必要がある。クラスの子どもたちにも事情を話してゆっくり理解してもらい、その子どもをクラス皆で見守っていきたい。

保護者とも家での様子、園での様子などを話す機会を設け、子どもの園生活がスムーズに行くよう協力し合っていく。また、療育に行かれている子どもの様子を聞かせてもらったりして、保育の手がかりとさせてもらおう。

焦らずに子どもに寄り添って心を通じ合い、みんなで園生活が楽しいものとなるようがんばりたい。

コロナ対策が緩和されるにつれ、マスクを外す子ども、職員も増えてきたが、体調不良を訴える子どもも多いので、しっかり手洗い、うがいを励行する。

保育カリキュラムを進めるにあたり、時間消化だけにならず、その日、その時間を大切に費やしていかなければならない。そのためには、保育内容と子どもの状態を把握すること、そしてそこからどのように展開していくのか適切か、子どもの学びに繋がる創意工夫をしようという心構えが必要である。

今後の課題について （平田先生コメント）

訪問させていただく度に感じるのは、子どもたちが明るく「こんにちは」の挨拶がきちんとできる子どもたちが多いことです。日頃から保育の中に社会性教育にも力を入れているということが伺えます。加えて、個性的なアイデアいっぱいの作品が掲示されていたり、お部屋の外のポケットに入った教材からは楽しい保育の様子が想像できます。

看護師さんの常駐で健康面にも手洗いやうがい、はみがき指導、視力、聴力など「病気の予防」の観点から力を入れていることも感じられます。これまで感染対策をしっかりされてきました。一人ひとりが高次元で実践できるよう指導をお願いします。

子どもとの信頼関係はどれだけ「僕のこと、私のこと」を見てくれているか否かにかかっています。それには「観察」が一番です。健康面・身辺自立・能力アップどれをとっても観察からの声かけは子どもとの信頼関係のパイプを太くします。

「小さなことも見逃さない」という気持ちで保育が実践されことを期待します。子どもたちは何でも興味を持ってやりたがっています。先生の指示で動く子どもから、「僕できるよ、私できるよ・・・」自立した子どもを目指して日々の保育を実践していただきたいと思います。

平田 匡邦 